

# インドネシア・スンダ地方の言語使用に関する考察—インドネシア語の使用空間及び位置づけの変化とスンダ語の衰退、保護—

## 要旨

社会システム研究科地域コミュニティ専攻

2014m30004

古野利和

本論文は、インドネシアの西ジャワ州・スンダ地方における言語使用状況およびその保護をめぐる動きについて検討している。インドネシアの人々は国語としてのインドネシア語とそれぞれの民族集団言語である地方語の二重言語使用世界に生きている。独立後、インドネシアの最優先事項は国家の統一であり、インドネシア語が国語に規定されその普及が目指された。一方の民族集団言語は地方語と呼ばれ、国語インドネシア語を支える役割に位置づけられた。第2代大統領のスハルト政権時代には、中央（国家）への従属と地方の脱政治化が強力に進められ、地方は国家を彩る要因として動員された。現在国民の9割以上がインドネシア語を運用できることを考慮すると、国語の普及は成功したと言えるだろう。しかし、国語普及の陰で地方語は脱政治化され、使用空間は減退した。公的な場では基本的にインドネシア語が話され、地方語は親族や友人といった近い関係の間に限られてきた。スハルト体制崩壊以後の地方分権と地方自治の拡大を受け、各地で地方語を保護する動きが見られ始めたが、その効果が高いとはいえない。金子（2002）は、ランブン州の地方語教育を事例に『滅び』と『制度化』、そして『差異化』が同時に進行する錯綜した地方語をめぐる状況を描いた。インドネシアの縮図と言われるランブン州の事例は、多民族・多言語社会のインドネシアにおいて、それぞれの民族集団言語の保護が容易ではないことを物語っている。

多民族・多言語ゆえの難しさがある一方で、西ジャワ州はスンダ語を話すスンダ人がその大半を占めていることから、地方語の保護や振興政策および活動が行いやすいと言われる。スンダ地方においても他の地方同様、地方語衰退の危機が叫ばれ、言語や文化の保護が目指されている。しかし、スンダの人々が実際にどのように言語を使用しているのかという実態に迫った研究はあまり見られない。そこで本稿では、スンダ語話者への聞き取りを実施し、言語使用および認識を踏まえてスンダ語の衰退と保護をめぐる動きについて考察する。

1章では、スンダ語の歴史を概観し、地方語教育が及ぼす影響について先のランブンを参照しながら考察した。スンダ語は歴史的背景も含め地域によって話される言語に違いがある。それらの言語はスンダ語の方言あるいはスンダ語とは独立した言語として扱われている。スンダ語は *kasar/halus* という言語の階層性を有し、プリアンガンのスンダ語が洗練さ

れた **halus** なスンダ語、それ以外は洗練度の低い **kasar** なスンダ語であると区別される。

現在一般にスンダ語というとき、それはバンドンを中心としたプリアンガン地域のスンダ語を指し、標準スンダ語として学校教育でも教えられてきた。こうした教育は、プリアンガンのスンダ語を日常使用しない地域の人にとって、彼らが日常話すスンダ語は正統でない間違ったスンダ語であるとの認識を植え付けかねない。周辺のスンダ語を露呈することの恥ずかしさからプリアンガンのスンダ語を無意識に話すよう方向づけてしまう。西ジャワ州の地方語教育はそうした危うさを秘めている。

2章では、スンダの人々がどのように言語を話しているのかを聞き取りをもとに調査した。インフォーマントは話者の関係性や場に応じてスンダ語とインドネシア語を使い分けている。友人や家族といった水平関係において日常的に **kasar** なスンダ語が話され、インドネシア語は職場や学校などのフォーマルな空間、スンダ人以外の人に対して用いられている。また、**halus** なスンダ語を代替するようにインドネシア語が話されてもいる。

3章では、インドネシア語と地方語の位置づけを確認し、スンダ語衰退の枠組を考察している。インドネシア語の普及は確かに地方語を衰退させてきたが、インドネシア語はスンダ人にとっての対立言語ではないという位置づけが地方語衰退におけるインドネシア語とスンダ語の関係性の捉え方を難しくさせる。

4章では、スンダ語の保護とそれがもたらす影響について考察している。現在西ジャワ州のいくつかの県や市で取り組まれている **Rebo Nyunda** という政策はスンダ語を話す機会を創出するが、一方でスンダのイメージをバンドン固有のものとして表出し、スンダ社会における中心と周辺の問題を強化する危険性を孕んでもいる。

スンダの人々は **kasar** なスンダ語を日常し、**halus** なスンダ語を代替するようにインドネシア語を話している。インフォーマルな空間においてもインドネシア語が話されるようになってきている。それに伴いスンダ語使用は減少し、保護が目指される。しかし、この陰にはスンダ社会内部の問題が潜んでいる。西ジャワ州はスンダ民族が多数を占めているが、それは必ずしも地方語の保護を円滑にすることを意味しない。